

1 庄内川河口 (水系 庄内川)

調査員 沢辺 幹和

国道23号線庄内新川橋から南の庄内川河口と稲永公園一带を含む地域が調査区域である。

庄内川河口にはヨシ原があり、干潮時は広大な干潟、藤前干潟ができる。藤前干潟は、国指定鳥獣保護区の特別保護地区、ラムサール条約登録湿地となっている。

稲永公園内には名古屋市野鳥観察館、環境省稲永ビジターセンターが



あり、野鳥観察や干潟等の学習ができる。野鳥観察館では常設の望遠鏡で手ぶらで来ても気軽に野鳥観察を楽しめる。この他公園内には稲永スポーツセンター、野球場、テニス場、サッカー場があり市民の憩いの場となっている。

調査地の特色

干潟、河川では水鳥が、公園内では野山の鳥が見られ、1年で100種類以上が観察され、名古屋市内では貴重な場所になっている。

ここ近年、コアジサシの飛来が激減して、初夏の風物詩のダイビングが見られなくなり、多くても数十羽程度の飛来数だった。

左岸堤防の工事のためヨシ原が失われ、また、大雨で干潟の形も変わり、干潟に砂が蓄積して餌が採れなくなり、シギ、チドリの飛来が少なくなった。

今回の調査でミヤコドリが初めて観察された。

2 新川河口・藤前地区 (水系 庄内川) 調査員 野村 朋子

新川の国道 23 号線より導流堤の先端付近まで（新川河口）と、日光川河口の南陽海岸（藤前海岸）前の干潟が広がる場所（藤前地区）が調査区域である。

新川河口には干潟が広がり、ヨシ原がある場所もある。河口は導流堤で庄内川と分けられているが、野鳥は庄内川河口と合わせて利用している。南陽海岸前の藤前干潟は、埋め



立てを免れ、2002 年に国指定鳥獣保護区、さらにはラムサール条約に登録された場所であり、大都市の中であって豊かな水辺の自然を有している。南陽海岸に面して環境省藤前活動センターと名古屋市南陽工場がある。環境省藤前活動センターは、藤前干潟に入って学ぶイベントを定期的に行っているほか、館内には干潟に関する展示が充実している。

調査地の特色

干潟にはトウネン、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ等の旅鳥や、ハマシギ、ダイゼンのような越冬期を過ごす多くのシギ、チドリが飛来し、採餌している。また、冬季にはスズガモやキンクロハジロ、オナガガモ等のカモ、カンムリカイツブリも多く利用している。ヨシ原は夏鳥のオオヨシキリなどが利用しているほか、カモやシギの休息や隠れ場所であり、水質浄化の役割も果たしている。また、南陽工場はカワラバトのすみかとなっているほか、煙突をハヤブサやチョウゲンボウが頻りに利用している。

前回（2014 年度）と比べると、オカヨシガモは増えたが、その他のカモ（マガモ、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロなど）は減少している。カンムリカイツブリは近年急激に増加している。シギの仲間のオオソリハシシギは飛来数が減少した。前回の調査時には減少著しいと記載のあるハマシギは、かつての飛来数には及ばないが、近年は減少せず飛来数は横ばいである。ユリカモ

メは、前回調査より増加しているが、近年増加傾向にあるというわけではなく、2019年の冬～春は多く飛来した。コアジサシは藤前干潟周辺に繁殖できる場所がなくなり、飛来数が減少した。ミサゴは2000年頃から増え、今回も減少はなく、前回調査と同数程度が確認できている。チョウゲンボウは近年、藤前干潟周辺で繁殖が確認されており、観察回数が増えている。クロツラヘラサギは、藤前干潟周辺では2019年は8年ぶりに飛来が確認された。

3 日光川河口 (水系 庄内川) 調査員 古井 繁孝
(地図は新川河口・藤前地区と同じ)

名古屋市西部と飛島村との境界を流れる日光川左岸、飛島大橋からサンビーチ日光川、国道23号線を経て日光川河口に至る約2kmの河川敷と中央境界線までの水面並びに河口部の小さな干潟が調査地である。環境省藤前活動センターより西へ700mに位置する。全域が国指定鳥獣保護区になっている。

調査地の特色

日光川河口の水閘門より上流域は水位調整が行われ、大きな湖の様相を呈している。広い河川敷にヨシ、ススキ、雑草が繁茂し草地化し、その中にエノキ、センダン、トウカエデ、ネズミモチ等の樹木が成長した林や堤防周辺にも林地が存在する。そこでは草原や森林性の野鳥、カモ類、サギ類、カモメ類、カワウなどの水鳥が多くみられる。これらを追ってチュウヒ、ノスリ、チョウゲンボウや川魚を食べるミサゴなどの猛禽類がみられる。河口部の干潟にはシギ類、チドリ類、カモ類が観察される。

付近の河川や都市高速道路の工事、川岸の樹木伐採及び砕石工場の影響で、近年の野鳥の生息数は著しく減少傾向にある。

4 庄内川（明德橋～庄内新川橋）（水系 庄内川）

調査員 近藤 孝

調査地域は、東海通、明德橋・日の橋から国道23号線、庄内新川橋までの2.4 km区間の庄内川・新川下流部である。定点及びラインセンサスで調査を行った。

岸沿いは広くヨシ原が広がり目視での観察は困難な場所が多いため、鳴き声での判断をカウント結果としたが、実際の数はい今回の結果よりも多いと考えられる。



調査地の特色

調査区域は名古屋市内で最も広いススキ・オギ類を含むヨシ原を有し、冬場はチュウヒを主とする猛禽類やオオジュリンの群れ、春から夏にはオオヨシキリやセッカの繁殖地になっている。

また最下流の河口部はラムサール条約登録湿地藤前干潟となっているため、調査区域が干潟の後背地としての役割を担っており、シギ・チドリ類の休息場所となっている。休息に訪れる鳥は、最大干潮時間よりも潮が引き始めてからのほうが数が多く、観察に適している。

河川敷の鉄塔はカワウやアオサギの繁殖場所になっているが、春の渡り際には50羽を越えるチュウシャクシギも埒として利用している。

夏場のコアジサシの減少や、冬期にハイイロチュウヒやコミミズクが観察されたのは、周辺環境の悪化により埒や捕食場所が減少したためかもしれない。水際でよく見られたバンは著しく減少し、かわって同じクイナ類のオオバンが数を増やした。カモ類は引き続き数を減らしているが、オカヨシガモだけは数を増やしている。シギ・チドリ類は総数を減らしているが、アオアシシギやオオハシシギは越冬個体の数を増やしている。

5 庄内川（新前田橋～明德橋） （水系 庄内川）

調査員 沢辺 幹和

庄内川新前田橋から明德橋までが調査地域である。右岸には以前の調査より少なくなったがヨシ原が広がり、左岸には緊急河川道路が整備され散歩道になっている。大当郎橋の近くには、大学の競艇部の施設があり、庄内川での練習風景がみられる。

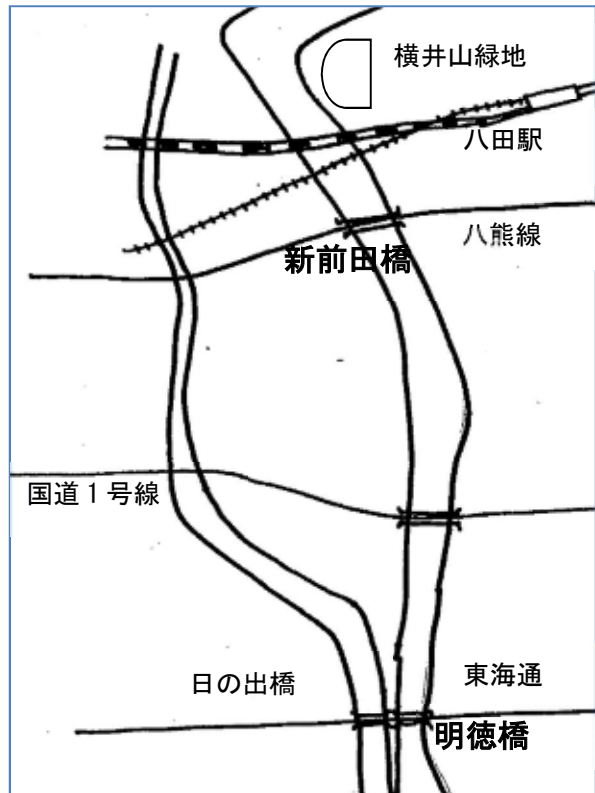
近年河川の護岸工事が進んでヨシ原の減少が進み、景観が様変わりしてきている。

調査地の特色

ヨシ原では初夏から夏にかけてオオヨシキリ、キジがさえずり、冬季にはオオジュリン等の冬鳥が見られる。秋から春頃はカモ類・カモメ類が、干潮時の干潟ではシギ、チドリが見られます。時には猛禽類も姿をみせ、数は多くないが、野の鳥から水鳥まで見られる。

国道1号線の一色大橋近くには立派な松林が残り、景観を楽しみながら、気軽に探鳥できる場所になっている。

堤防工事でヨシ原が刈り取られたためオオヨシキリ、キジが減少した。コアジサシの飛来も少なくなったが、冬季にスズガモ、キンクロハジロ、オオバンが増えた。今回はマガン、ヒクイナが見られた。



6 横井山緑地・庄内川（横井大橋上流）（水系 庄内川）

調査員 平井 直人

庄内川万場大橋の下流，流れが大きく蛇行する左岸に位置する。緑地には遊具やテニスコート，ジョギングコースなどが整備され，四季折々の花が咲き，周辺住民の憩いの場となっている。

調査地の特色

緑地内の植栽樹木も多く，隣接する準源寺の境内にはエノキ，ムクノキの大木があるため，観察できる野鳥の種類も多い。堤防を上がると庄内川の河川敷が広がり，スズメやカラス，ムクドリなど，多くの野鳥が緑地と河川敷とを行き来している。

現在公園内再整備中である。以前は園内全体に大きな樹木が育っていたが，サクラ林や準源寺境内周辺を残して大木を伐採し，安心して楽しめる明るい公園にする計画である。健康器具広場や遊具広場などを広く整備するため，野鳥観察のエリアは限定される。



7 庄内川（枇杷島大橋～万場橋） （水系 庄内川）

調査員 木村 純子

調査区域は枇杷島橋から万場大橋までの間で、多目的広場や野球場、畑などがあり、車両や人の出入りが多い。

調査地の特色

河川敷を利用して多くの球技用グラウンドが整備されている。また、市民菜園として利用されている部分と雑木林や竹藪となっている部分が重なり合い、川辺も近く複合的環境になっている。

そのため、季節を通して多種の野鳥が観察できる。特に春秋の渡りの季節は私たちを楽しませてくれる。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、4月から6月くらいまで緑地内の野球などのグラウンド施設が使用停止となった。

そのため、野球グラウンドの隅でケリが、サッカーグラウンドでヒバリが営巣している姿がはっきりと確認できた。

また、枇杷島橋下で繁殖するイワツバメの数は50羽を超え、採餌・巣材探しは圧巻である。



8 庄内緑地 (水系 庄内川)

調査員 渡邊 明子

庄内川の右岸，小田井遊水地を利用した「水と緑と太陽」をテーマとした約 40 ha の公園。樹木の多い公園で，鳥たちの好む実のなる木がたくさんある。ヤマモモ，クロガネモチ，ピラカンサ，センダン等四季を通じて鳥が集まる。



調査地の特色

園内では，渡りの時期にキビタキ，オオルリ，サンコウチュウが飛来して楽しませてくれる。池ではカモ類も多く越冬する。また，街中では珍しいフデリンドウが観察される。

9 庄内川 (水分橋～庄内川橋) (水系 庄内川)

調査員 村上 修

水分橋から庄内川橋にかけての河川敷が調査地である。河川敷は農地，サッカー場，野球場，自転車道などに利用され整備されていて歩きやすい。



調査地の特色

樹木はセンダンやクワ，ナンキンハゼなどが点在し，ムクドリ，ヒヨドリ，キジバトなどのエサになる，農地の近くに小さな林とササ原が見られる。少なくとも年に一回は草刈りが実施されるので，立ち入れないほどの草原は少ないが，ふれあい橋両側などは草

原となっている，草はセイタカアワダチソウ，ススキなどが多くセッカやホオジロが営巣地として利用している。新川中橋より下流は広い芝生が広がり春にはヒバリの囀りが聞こえる，川にはカモ類やカンムリカイツブリ，カイツブリが見られ，夏の堰にはササゴイなどサギが集まる。名古屋市内では見られなくなったヒバリやキジなども多く見られる貴重な地域と考えられる。

新型コロナウイルス感染症の影響などもあり，河原で遊ぶ人が増えた。テントを張りバーベキューをして楽しんでいるが，そのままゴミを放置して帰ってしまう人がいて，ごみの量が非常に増えた。また中州に入って遊ぶ人も多く，コチドリの営巣の妨害になっている可能性が懸念される。

10 庄内川（松川橋～水分橋）（水系 庄内川）

調査員 鳥居 万州夫

庄内川の河口から約 25 km，守山区の松川橋から国道 19 号線の勝川橋をくぐり，守山区と北区をつなぐ水分橋までの約 3 km が調査区域である。この場所は東海豪雨（2000 年）で，庄内川の水位が上がり，現在補強及び改修工事中である。庄内川流域では，庄内川流域治水協議会が治水対策を進めている。工事中の河川流域には，野鳥の棲み処はない。



11 庄内川竜泉寺（吉根橋～東名阪）（水系 庄内川）

調査員 中山 雅晴 ・ 澤野 史枝

庄内川の河口から 27 km 地点に特別緑地保全地区の竜泉寺の森がある。その北側，守山区の吉根橋～東名阪庄内川橋までの左岸の河川敷には 4 km に及ぶ自然が残されている。川には堰もあり山野の鳥から水辺の鳥まで見られる。

調査地の特色

この調査地区は特色により、大きく 3 つに分けることができる。

まず、竜泉寺を中心とする森は樹木が生い茂り、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリに、季節の渡り鳥のキビタキ、オオルリ、センダイムシクイ等がみられる。昆虫も多く、9月にハンミョウが見られた。次に、庄内川流域周辺では、ヨシ原、ササ原、河原等で、カモ類、サギ類、キジの鳴き声にカイツブリ、オオバン、イカルチドリが見られた。さらに、吉根地区の田畑では、春のヒバリ、秋のノビタキ、数百のスズメにケリの繁殖が見られた。最後に、各所の上空で、オオタカ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウが観察された。



12 庄内川（東谷橋～吉根橋）（水系 庄内川）

調査員 江ノ本 伸一

岐阜県多治見市方面の溪谷を抜けてきた庄内川が、濃尾平野に流れ出した直後の区域である。瀬戸市から名古屋市に入った東谷橋から吉根橋までが調査区域である。兩岸の堤防上は道路になっており、車が通行できるところも多い。

調査地の特色

土岐川が岐阜県との県境にある溪谷から抜けて庄内川に名を変え濃尾平野に流れでた後で、中流域でありところどころ瀬と渚があり比較安定した水量を保ち緩やかに蛇行している。河川敷は広くところどころに林があり自然の生態系を維持できる環境が残る貴重な場所である。堤防は大きく高さもあり人の生活域との境になっている。

東谷橋付近では野鳥の種類、数が多く見ることができ猛禽類もよく見られた。支流の合流地にはヤナギの木やヨシが広がる個所があり虫も多くこれらを食すツバメ等の野鳥が良く見られる。最近では田畑が少なくなり住宅街に変わってしまいヒバリが営巣する場所が少なくなっている。



13 矢田川橋緑地 (水系 庄内川) 調査員 川口 航

河川敷が緑地公園になっており、周辺は住宅街であるが、公園や寺院がある。小規模ではあるが林もある。

水鳥をメインに野山の鳥もみられる。

河川敷の草刈りが行われると鳥相が変化することがある。



14 堀川 (白鳥付近) (水系 堀川) 調査員 大橋 修

熱田区の中央を流れる堀川の旗屋橋から白鳥橋までの間と熱田神宮公園周辺が調査地域である。

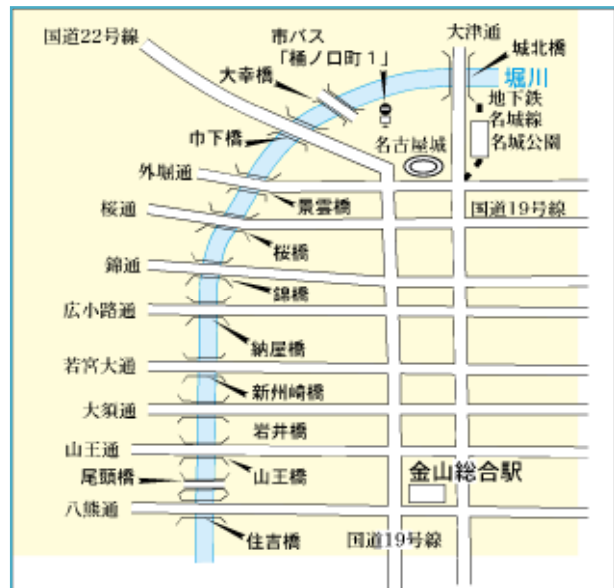
左岸には熱田神宮公園，右岸には名古屋国際会議場や白鳥公園，白鳥庭園があり，まとまった緑がある。

調査地の特色

白鳥公園内にある貯木場跡（太夫堀）と堀川には冬場にカモやユリカモメが多数集まり，一番賑やかとなる。兩岸にある白鳥公園，白鳥庭園，熱田神宮公園の植栽は鳥たちの餌場であり，夏の渡り鳥の中継地となっている。



名古屋市ほぼ中央を南北に流れる堀川の北区名城一丁目，城北橋より，中川区尾頭橋一丁目，尾頭橋までの約 6 km が調査区間である。城北橋から国道 22 号線付近までは川幅も狭く，両岸からも望めるが，それより下流は両岸に民家が並んでいてその間の橋の上から上下流を眺めての探鳥である。



調査地の特色

城北橋から尾頭橋まで堀川沿いを見たが，県スポーツ会館北の堀川はカモのたまり場になっていた。特にヨシの中にコガモが集まっていた。コガモにとってヨシ原は貴重な環境だと思われる。名城公園西側の筋違橋より上流では川沿いの樹木に山野の小鳥も見られた。松重閘門の川幅が広い所では，流れが緩やかなためかカモ，サギ，カモメなど多くの水鳥が集まって休んでいた。

最近ヨシガモ，オオバンが飛来するようになってきた。

16 黒川 (水系 堀川)

調査員 木村 純子

北区を流れる通称「黒川」は堀川の上流部の名称である。矢田川と堀川（黒川）が交差する三階橋ポンプ場下にある夫婦橋から名城公園付近の城北橋までの約3 kmは調査区域である。この区域のほとんどに遊歩道が整備され、市民の憩いの場となっている。



調査地の特色

前は観察できなかったヨシガモが10羽以上の群れで12月から4月まで観察できた。また、春秋には渡り鳥の休息の場所ともなっているようで春秋はヒタキ類、ムシクイ類が数種観察できた。冬はツグミ類、ジョウビタキが多く観察できる。春に数羽のカワセミが観察でき、営巣の可能性もあるが、確認まで至っていない。

17 大江川河口 (水系 大江川)

調査員 芝原 隆男

調査地区の大江川は、両岸の半分以上が工場敷地である。コンクリートの堤防が両岸を全通しており、川の全長の3分の1は川底に至るまで人口の溝である。



調査地の特色

水路のような川だが、左岸は工場地帯で人間の姿がなく、水鳥にとってはオアシスである。魚類も幼魚か

ら産卵魚（大型のクロダイ）、エビ、ウナギ、ハゼ、ボラ、セイゴ等々種類も多い。カワウがウナギを食べるシーンに出会うときもある。この2,3年、上流に位置する大江川緑地ではササゴイのコロニーができています。

ただし、今後は河口までのほとんどを埋め立て予定のため、調査ができなくなりそうである。

18 大江川緑地 (水系 大江川)

調査員 佃 春雄 ・ 久納 温子

大江川緑地は、南区を東西に流れる大江川約2 kmを暗渠にし、上部を緑地にした都市公園である。周辺には工場や住宅地が広がり、緑地内を散歩やジョギングする人が多く、市民の憩いの場となっている。人工池や小川、噴水があり、ネズミモチ、クログネモチなど実のなる植物も多く植えられている。草地のある西端は河口の為、渡り鳥の往来がある。



国道 23 号線，天白川扇川橋付近から西へ名古屋港にそそぐ区域。周辺は住宅地や工場に囲まれており，天白大橋下流の左岸側（東海市側）にはドッグランのある新宝緑地が隣接している。天白大橋より西の川岸は工場などの私有地のため，その付近は東海市側から観察を行った。



調査地の特色

天白大橋付近にはヨシの生えているところが残っており，オオヨシキリやオオジュリンなどヨシ原を利用する鳥が見られる。また，干潮時には小さいながら干潟が現れ，シギ・チドリ類やサギ類，カモ類などが餌場や休息の場として利用している。冬にはホシハジロ，キンクロハジロ，スズガモなどの多くのカモ類が飛来する。春の渡りの時期にはチュウシャクシギ，ソリハシシギ，トウネン，キョウジョシギなどが見られ，冬には 60 羽以上のハマシギの群れが見られる。イソシギは一年を通してよく見られる。また，カワウも周年大群が見られ，休息しているところや集団での魚の追い込み漁が観察された。ミサゴが増え，ハンティングがよく見られるほか，ハヤブサやチョウゲンボウなどの猛禽類もときどき現れる。コアジサシは，天白大橋下流で 1 つがい구가求愛給餌するところや他個体と追いかけあうところが観察された。ササゴイは市内では頻繁に見られる種ではなかったが，港区を中心に観察されることが多くなり，天白川河口でも良くみられるようになった。婚姻色の現れた成鳥や幼鳥も見られた。オオバンが非常に多くなった。近隣の港区や藤前干潟などでも定着したが数の多さでは天白川が目立つ。カンムリカイツブリも増えており，多い日には 100 羽以上が観察された。干潟周辺ではハシボソガラスが多く，木のあるところや建造物の上などではハシブトガラスが多く見られ，環境によって棲み分けている様子が見られた。

天白川の中流域，天白区役所から野並付近まで3 km にわたる天白川両岸につづく緑地である。河川敷に整備された遊歩道や広場では，ウォーキングや犬の散歩をする人が多い。付近には住宅街や学校があり，平日は通勤・通学をする人の姿も多く見られる。



調査地の特色

草刈りなど堤外地の手入れが行き届いており，年間を通じてジョギングや釣りなどの利用者が多い。そのため，開けており観察を行いやすい反面，鳥類の隠れ場所が少なく，警戒心の強い種はあまり見られない。低水路には浅瀬が多く，セキレイ類やイソシギ，イカルチドリを見られるポイントになっている。サギ類，カワウはほとんどの月で観察されたほか，夏季にはササゴイ，冬季にはヒドリガモやコガモなどが多く見られた。

21 東山公園（植物園）（千種区） 調査員 天野 弘朗

約 260 ha の林に囲まれており、植物園はそのうち約 27 ha である。東海の森や万葉の散歩道、竹林、梅林などがあり緑豊かな環境を有している。1 年を通じて野鳥観察が楽しめる。

環境省の日本の音風景百選認定。愛知県指定鳥獣保護区。



調査地の特色

自然林を活かし管理が行き届いた園内は、樹林性の種が主である。周年見られる種はヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、エナガ、コゲラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバトなど。冬期はシロハラ、ジョウビタキ、ルリビタキ、アオジなどが増える。春秋の渡りの時期はヒタキ類、ムシクイ類などの中継地になっている。前回より種数、個体数は少なく、特に秋～冬は非常に少なかった。今回の結果を見る上で重要なのは、新型コロナウイルス感染症対策で4月10日から6月1日まで休園していたことである。4月下旬は、渡りの通過と思われるコマドリ、エゾムシクイ、オオルリなど多数確認された。4月後半と5月には繁殖に関わる行動が前回より多く確認された。4月上旬は、渡りの種と個体数の確認数は少なく、5月は渡り種は僅かしか確認されなかったことから、今年の調査地での渡り通過は、種により多少違いがあるが4月の中下旬がピークと思われる。4月上旬の確認が少なかったのは、時期的な理由か休園の影響なのかは不明だが、渡りの種の観察が多いことと、繁殖行動が前回より多く確認されたのは休園期間であった。休園中も維持管理する作業は行われており、人の動きは皆無ではないので、人間の絶対数と行動様式が影響していると考えられる。

東部丘陵地に広がる約 147 ha の墓地公園。西北端には約 6.5 ha の猫ヶ洞池，南部には約 50 ha の市民の森と呼ばれるアカマツ等の針葉樹，コナラ，アベマキ等の落葉広葉樹，ソヨゴ，ヒサカキ等の常緑広葉樹からなる自然林が広がっている。市民の森の南側に東西に伸びる谷戸にあるハンノキ湿地は，かつて乾燥化が進んだものを周辺地域から湧水を引



きこんで溜め池として再生した湿地である。溜め池，湿地，竹林，ヨシ原等に加え，ボランティアの耕作する田んぼ，畑もあり，市街地の中の里山としての環境が保たれている。

調査地の特色

市民の森の南端を東西に横切る中道沿いには，水源の奥池から大坂池まで小川が流れ，間に竹林，湿地，ヨシ原，水田，畑等多様な環境が広がっており，猫ヶ洞池も含めて，毎年 70～80 種ほどの野鳥の生息が確認されている。観察される野鳥の種数，個体数がピークとなるのは，例年，冬鳥の飛来が本格化する 10 月末から，それに続く冬鳥のシーズン。猫ヶ洞池のヨシ原周辺には 100 羽を越える越冬カモの群れが観察される。また，春・秋の渡りの時期には，日替わりで多くの種類の渡り鳥を観察することができ，渡りの途中の中継地としての役割も果たしている。

23 城山八幡宮 (千種区)

調査員 山本 卓也

末盛交差点の北東に位置し、駐車場の敷地内には末盛城跡があり、一帯は閑静な森になっている。緑地保全地区、名古屋市野鳥保護区。



調査地の特色

歴史のあるエリアなので、アベマキの大木他、落葉樹、常緑樹のバランスのとれた林相になっている。また下草も多いことから、冬期のウグイス、アオジ、シロハラが見られる。シメが毎冬見られるのも特徴のひとつである。ここ数年、大幅な伐採が行われたことから、八幡宮の南側は開放的になったが、この1年に限っては鳥相に大きな変化はなかった。

24 名古屋城一帯 (北区)

調査員 右高 幸男

名古屋城は、1612年に徳川家康が、その子義直のために、諸国大名に命じて築城させたもので、名古屋のシンボルになっている。さらにその北側に広がる名城公園は緑の林が広がり、野球場やテニスコート、ジョギングコース等が併設されていて、市民の憩いの場となっている。



調査地の特色

大都市名古屋でも都心に位置する名古屋城は、マツ、クヌギ、エノキなどの大木で囲まれている。また、北西側は水堀で囲われているため、カモ類やユリ

カモメ、カワウ、サギ類などが多く見られる。また、北側に広がる名城公園でも、クスノキ、クヌギ、ナンキンハゼなど実のなる大木が多数あり、山野の鳥が多く見られ、特に春秋の渡りの時期には、キビタキ、オオルリ、ムシクイ類などさまざまな渡り鳥も休息し、通過していく。

25 中村公園 (中村区)

調査員 大主 順一

中村公園は、豊臣秀吉をまつる豊国神社を中心に、西側には中村公園文化プラザ、太閤池、ひょうたん池があり、東側はかおりの園、秀吉産湯の井戸がある常泉寺、加藤清正ゆかりの妙行寺など、伝承的施設が多い。北には名古屋競輪場がある、樹木はクスノキが多く、マツ、サクラ等もある。



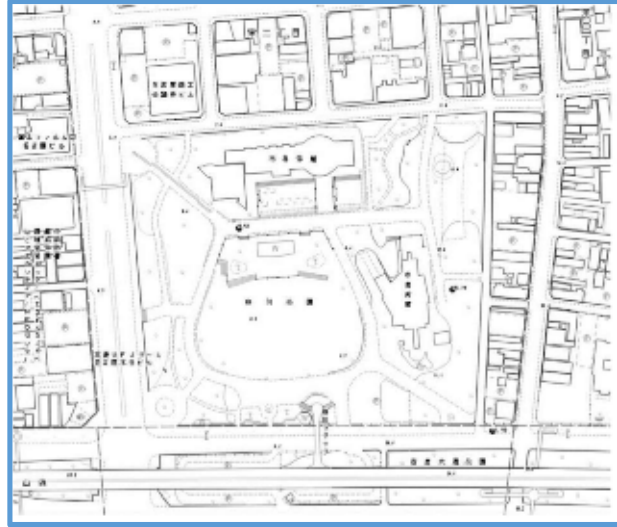
調査地の特色

緑は豊富ではないが、鳥類は36種を数え、春・秋の渡りにはかおりの園近くでクロツグミ、キビタキ、オオルリが見られ、また庄内川が近いのでカワウ等の飛翔する姿も見られる。

26 白川公園 (中区)

調査員 近藤 哲雄 ・ 村上 修 ・ 竹田 恵一郎

白川公園は、名古屋の中心市街地に位置し、園内には科学館や美術館がある 8.9 ha の緑豊かな公園である。クスノキやケヤキの大木が多く、中低木はまばらで見通しが良い公園になっている。



調査地の特色

個体数の大半は、スズメとカワラバトで占め、次いでハシボソガラスである。公園東側の遊具エリアで、エサやりをする人が散見され、カワラバトはそれを学習している様子である。付近はオフィス街とマンション街が混在しており昼休みなどにお弁当を食べている人が居る。スズメの一部がそれらの人に近づいてエサをねだる仕草をする光景がみられる。林床部では、季節によりシロハラ、通年ではスズメ、カワラバト、ハシボソガラスなどが見られるが、通路が網目状に通っていて人が近くを通るためか、人慣れしている留鳥、外来種以外は少ない。樹木の背がかなり高く、カラ類などを観察するためには、かなり見上げた姿勢をとる必要がある。調査中には確認できなかったが、ここで出会った人の話によると、5月：ムシクイ類、10月：キビタキ、コサメビタキの目撃情報がある。

27 鶴舞公園 (昭和区)

調査員 徳田 祐一

名古屋市中心部にあつて、戦前から都市公園として整備されて、戦前の動物園の跡や病院の門などが残り、近隣に八幡山古墳が残され公園となっている。JR 東海の中央線や名古屋高速、飯田街道などの幹線道路も交差しており、鳥たちの渡りの中継地としても知られている。近年公園整備が進み木々が刈り込まれ鳥たちの休み場所やえさ場、水場が限られてきて数を減らしている。



28 興正寺 (昭和区)

調査員 森 眞

名古屋市の東南部に位置する興正寺は、八事山と号し、高野山真言宗に属する寺院。市内では最も広い寺域を有し、中でも国の重要文化財となっている高さ 30 m の五重塔は県下唯一の木造塔で 1808 年に建立され、興正寺の象徴ともいえる。寺院に続く広い地域は興正寺公園となっており、特別緑地保全地区。名古屋市野鳥保護区。



調査地の特色

興正寺境内の林は古くから人の手が加わっていない自然林で、サカキ、ソヨゴ、アラカシ、コナラ、アベマキ、カクレミノ等の広葉樹やアカマツなどの針葉樹の混交林である。中でもサカキの自然林は市内でも珍しい。夏から秋にかけてはキノコ類も多い。林内には「八事山を歩こう会」コースが整備されてい

る。調査はほぼコースに沿ったラインセンサスで実施した。野鳥の種類はあまり多くないが、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、キジバト、シジュウカラ、コゲラ、スズメ等が周年観察される。春・秋の渡りの時期には重要な中継地としての役割を果たしており、ムシクイ類、ヒタキ類が通過していく。今回の調査では新たにアカゲラ、コマドリ、サンコウチョウ、サメビタキ等が確認された。前回調査で確認された外来種のソウシチョウは今回は確認できなかった。

29 瑞穂公園 (瑞穂区) 調査員 中山 雅晴 ・ 澤野 史枝

瑞穂公園の中を流れる山崎川が中心となり，周囲の住宅地に植えられた樹木も多い。

調査地の特色

この調査地区は，特色により大きく3つに分けることができる。

まず，名市大薬学部周辺では，山崎川の浅瀬に鳥たちが水浴びにやって来る。ヒヨドリ，スズメ，ムクドリ等。冬のキセキレイ，春・秋のムシクイ類，ヒタキ類も観察できる。

次に，陸上競技場周辺では，広葉樹，針葉樹等管理された樹林に多くの鳥たちが集まってくる。キビタキ，オオルリ，コサメビタキやムシクイ類も移動していく。また，シジュウカラの繁殖も地域住民の巣箱掛けにより間近で観察することができた。

最後に，新瑞橋周辺では，干満の影響を利用した水辺の鳥たちが集まってくる。上がってくる小魚を狙うササゴイ，ゴイサギ，サギ類や，川底のゴカイをつまむイカルチドリ，コチドリ。カモ類も多い。ここには冬場にケリが集まってくる。



30 熱田神宮 (熱田区)

調査員 今飯田 潔

境内は都会の中にあり面積約 19 万 m²。樹木はクス、ケヤキ、カシ、シイ、ムク、イチヨウ、クロガネモチ、エノキ等比較的広葉樹が多く樹齢千年前後のクスが数本あり、敷地全体が特別緑地保全地区になっている。



調査地の特色

春・秋の渡り鳥の時期には色々な鳥が観察される。

ただし、境内での施設の工事があり、池の工事で水が抜かれ水鳥を見られなかった。また、コロナ対策により一部立ち入り禁止となり観察場所が減少した。高木・枯れ木の整理が行われキツツキ類も以前のように見られなかった。カラスが多く、ヒヨドリやキジバトの営巣も見られなかった。

鳥の種類・数も少なかった。

31 高座結御子神社・高蔵公園 (熱田区)

調査員 佐藤 文昶

高座結御子（たかくらむすびみこ）神社は小さな神社ではあるが熱田神宮の摂社で、子育ての神様として親しまれている。



神域は広くはないが、市の保存樹である大きな古木が数多くあり、市街地にありながら昔のままの環境が保たれている。

神社を取り囲むように高蔵公園があり、公園の東側は南大津通に接している。また、野球場や遊具が整備されており、近隣住民に広く利用されている。

る。

特別緑地保全地区。名古屋市野鳥保護区。

調査地の特色

鳥類は常にいる種類は少なく，近隣から飛来したり渡りの途中に休息しているものも多く，足繁く通わないと多くの鳥には会えないが，市街地でキビタキなど渡りの鳥に出会うこともある。

なお，神社の鳥を見るには大木直下で見るより，神社を囲むフェンス越しに見た方が見やすい。特に東側からがおすすめである。

公園工事により「地面」が少なくなって地上へ降りる鳥類にとっては若干居づらい環境になり観察数も減った。

32 戸田川 (港区)

調査員 米倉 静

国道1号線から下流の東海通までの戸田川と川沿いに整備された戸田川緑地が調査区域である。

朝早くから散歩やジョギングをする人が多く，休日はバーベキュー広場が賑わう。樹木の手入れもよく四季の花が楽しめる。

調査地の特色

冬場ミコアイサが多く見られた。



33 南陽町 (港区)

調査員 前田 崇

名四国道（国道 23 号線）より北の茶屋地区と藤高地区の水田地帯が調査地区。

調査地の特色

春，田植えの時期はチュウサギ，ダイサギ，コサギなどのサギ類が，飛来し，ドジョウや甲虫類のさなぎなどを捕食する。夏季は，近辺で繁殖した，サギ類が餌を取り来るが数は少ない。稲刈りが終わり，水田を耕耘機で耕すと，200 羽を超えるサギが飛来し餌を取る。一番多いのは，チュウサギで全体の 7 割以上である。10 月に入るとチュウサギは渡っていき，かわりにカモ類が飛来する。ハシビロガモやオナガガモが 300 羽以上水田で捕食している。国道 302 号線の近くに，割と大きな調整池があり，冬季には，ヨシガモが 24 羽，確認できた。ハシビロガモ，ヒドリガモ，オカヨシガモ，キンクロハジロ，ホシハジロ，コガモと 100 羽以上のカモが見られる。4 月にはシマアジ 2 羽も確認した。



34 見晴台・笠寺公園 (南区)

調査員 小川 和彦

見晴台・笠寺公園の北東側は緑地として整備され，スズメ，ムクドリなどの採餌場となっている。

調査地の特色

大きな環境の変化がない場所である。スダジイ，シラカシ，クスなどからなる弥生の森と周辺で野鳥がよく観察される。春の渡りの時期にはオオル



カルがあまり観察できなかったことが印象に残った。樹高の高い木が多い林内は暗く、野鳥観察は簡単ではないが過去には珍しい鳥が観察された記録もある。リスやムササビ、2010年に初めて確認されたニモンカモシカも生息する豊かな自然が残るこの森は野鳥だけでなく他のいきものたちにとっても貴重な場所である。

環境面で前回の調査から変わったことは、ナラ枯れの他にも人の介入による伐採や、2018年には山の南東部にメガソーラーができ、またフルーツパーク周辺の道路が整備され山の南を走る志段味水野線が国道155号のバイパス機能を果たすようになったため交通量がかなり増えた。全体的には野鳥の数は減少しているように感じた。

36 大村池・大久手池 (守山区) 調査員 川口 航

どちらも名古屋市北東部に点在する農業用のため池である。

大久手池は東側に森があり、それ以外は、かつては田園地帯であったが、現在は西側の一部を除いて宅地化が進んでいる。

大村池は森林公園に隣接しており、まわりは森やゴルフ場に囲まれた環境にある。大村池周辺は愛知県指定鳥獣保護区に含まれている。



調査地の特色

公園、ゴルフ場、雑木林に隣接している池である。このため、カモ、サギなどの水鳥の他、ヒヨドリ、キジバト、カラ類等の野鳥の鳥も見られる。

東の東谷山や瀬戸定光寺から連なる丘陵地帯の西端に位置する。また北側は庄内川にも隣接し、近年まで野生リスも見かけられたことは、鳥のみならず多くの哺乳動物たちも生息する環境にあったと思われる。こうした自然環境を利用してつくられた自然度の高い公園であった。しかし近年、公園東の志段味地区の開発が急速に進み、都市公園としての性格を強めつつある。今後は、都市の中の大きな緑地帯としての意義が高まってゆくと考えられる。



調査地の特色

冬にカモなどが訪れる大小の池，それを結ぶ水路や湿地，また樹木の茂る起伏ある地形もあり変化に富む。鳥類は，ヒヨドリ，メジロ，コゲラ，シジュウカラ，ヤマガラなどの留鳥が中心だが，夏にはキビタキ，冬にはカモ類やツグミ，シメなど，渡りの季節にはサンショウクイ，サンコウチョウ，オオルリ，ムシクイ類などが立ち寄る。今年はおジロビタキも観察され，年間 60～70 種が見られる。植生は，コナラ，アベマキなどの落葉広葉樹を中心にクロバイ，カシ，シイ，ソヨゴ，サカキ，カクレミノなどの常緑樹が混在する。さらにマメナシやトウカイモウセンゴケのど湿地を好む珍しい植物も生育している。カキをはじめヌルデ，ハゼなどウルシ類の実，ヒサカキ，シャシャンボ，ナンキンハゼの実などは，野鳥たちの重要な冬の食料となっている。また，緑ヶ池東岸のヨシ原は水鳥以外の小鳥たちにとっても大切な生息環境となっている。

コジュケイを園内で見かけることの多くなった。これまで園内でコジュケイの声を聞くことはなかったが，25 回の調査の内 6 回（3 月～6 月と 9 月）鳴き声を聞き，親子連れも見かけたこともあった。

38 戸笠池・ほら貝池 (緑区・天白区) 調査員 杉浦 瑠実子

戸笠池は天白区，ほら貝池は緑区の住宅地の中にあり約 300 m 離れている。ほら貝池の周りは桜並木で，市民の散歩コースになっている。池の東側がヨシ，ヒメガマの植生となっている。戸笠池は西側は護岸されているが，南東側に雑木林があり東側にはヨシ原，芝生広場が広がっている。



調査地の特色

戸笠池の南東部にはコナラ，ヤマハゼ，カワヤナギ，ヒサカキ，ヤブツバキ，ハリエンジュ等の雑木林があり，渡り途中の小鳥たちのよい羽休め地点となり春にはキビタキ，オオルリ，秋にはコサメビタキ等が見られた。冬にはツグミ，シロハラの越冬が観察された。この池は6月から10月までに間，水位が下がるため，ダイサギの群れやアオサギ，コサギ等が動き回り採餌をしていた。水位が上がる冬場には，ヒドリガモ，オオバン，ホシハジロ，オカヨシガモが見られた。

ほら貝池の周りは，シジュウカラやカワラヒワを観察，落葉高木のプラタナスではハシボソガラスの営巣が見られた。

ほら貝池のヨシ原の植生の変化や池の水質の悪化が見られるのか，以前は行われたオオヨシキリ，バン，カルガモ，ヨシゴイの繁殖が今回は全く見られなかった。

39 勅使ヶ池 (緑区)

調査員 佐藤 武男

名古屋市緑区東部のみどりが丘公園(60 ha)に隣接し、豊明市との堺に位置している。池の広さは23 haである。池の周りには名古屋市、豊明市の墓地がある。最近、墓地が拡張されて年々緑がなくなっている。池には愛知用水の水がはいっている。池は2003年から2013年に掛けて護岸工事されて、きれいになり、周囲2.7 kmを約1時間で1周



できる。豊明市側には野鳥観察地点があり、ブラインドが整備されている。

調査地の特色

林はコナラ、アカマツがほとんどである。所々に竹林がある。春・秋にはヒタキ、ムシクイの中継地と思われる。池の周辺にはヨシが茂り、夏にはオオヨシキリの繁殖地になっている。冬季にはノスリ、ハイタカ、オオタカの猛禽が見られ。冬季にはカモでミコアイサ、ヨシガモ、オシドリが見られる。冬季にはベニマシコ、オオジュリンが見られる。最近池の西側にはアオサギ、ダイサギ、ゴイサギのコロニーがあり繁殖地になっている。

40 水広公園 (緑区)

調査員 佐藤 武男

名古屋市東部の、中京競馬場北1 kmに位置する約6 haの公園。西側に水広下池、東側に林がある。林内には散策路が整備され、芝生広場とともに市民の憩いの場として利用されている。最近、周りは宅地造成され新築の家が多く建っている。水広下池では年中、釣人がいる。約30分で散策できる。



調査地の特色

水広下池の南側にはブラインドがあり野鳥観察ができる。

林はコナラ、アカマツがほとんどで、ところどころに竹林がある。冬にはドングリの実がたくさん落ちている。春・秋の渡りの中継地になっている。夏季にはセミがよく鳴いている。

41 成海神社・新海池 (緑区)

調査員 矢田 和子

成海神社は名鉄鳴海駅の北1 kmにある小規模な神社森である。西に天白川、南に扇川、南東に大高緑地と囲まれており名古屋市野鳥保護区に指定されている。近くの新海池は北側にヨシ原があり釣り人で賑わっている。野球場や広場もあり丘陵地には林もあるが北側の展望が良く多くの人達で賑わって市民の憩いの場となっている。ともに住宅地に囲ま



れている。

調査地の特色

鎮守の森としてクスノキやカシなどの常緑広葉樹が多い。近年神社の周りの樹木が伐採され整備されたがシジュウカラやメジロ、コゲラなどが一年を通してよく見られた。

新海池は春には主にアオサギやゴイサギが台座型の巣を造り賑やかになる。近くの大型ショッピングセンター西側の樹木や竹林のある私有地でもチュウサギやアマサギなどの営巣コロニーがあり早朝や夕暮時には多くの飛び交う姿を観察することができる。池ではヘラブナやモロコが多く釣り人で賑わっている。冬季にはカモ類もいろいろ見られオオバンが居つくようになった。

3月にヒレンジャク7羽、9月にコシアカツバメ21羽が確認できたのは突出した記録であった。

42 大高緑地 (緑区)

調査員 谷 幹雄 ・ 関上 裕文

名古屋市東南部に位置する約100 haの県営公園。国道1号線から入ると琵琶ヶ池中心に菖蒲園、梅林、若草山、遊具、野球場、バーベキュー広場、公園中央には管理事務所を中心に交通公園、プール、テニスコート、桜の園などがある。

公園南部は自然林が残り、四季を通じ憩いの場となっている。管理事務所主催行事や、多くのボランティア団体の活動も活発に行われている。

東側に環状2号線ができ、交通アクセスがよくなった。公園周辺は宅地化が進み、愛知県指定鳥獣保護区、名古屋市野鳥保護区として貴重な自然となりつ



つある。

調査地の特色

環境が多様であり、大規模な公園であることから、飛来する鳥類は多種にわたる。

冬は琵琶ヶ池に多くの水鳥が飛来する。飛来する種類は変化しているが最近ではマガモの越冬数が多い。

渡りの季節にはオオルリ、コマドリ、コルリ、ホトトギスなど多くの鳥の中継地点になっている。また、カラスがねぐらとして利用しており、数百単位の群れが自然休養林上空で確認できる。

その他、渡りの季節にはヒヨドリ、ムクドリ、ツグミなどが百羽単位で集結しているのを観察することができる。

最近では周辺の宅地化が進み、多くの人が散歩やレクリエーションに訪れ、鳥や自然に関心を持つ多くの人と接することが出来るようになってきた。

43 鷺津山 (緑区)

調査員 小川 和彦

鷺津山は JR 東海道本線大高駅の東に位置する。戦国時代、大高城の今川勢を牽制するため、織田方によって 1559 年（永禄 2 年）に砦が築かれた。現在は鷺津砦公園となり史跡として残されている。

調査地の特色

環境に変化はなく、照葉樹林、竹林は薄暗い。春の渡りの時期は、オオルリ、キビタキ、センダイムシクイ、クロツグミが観察された。

今回は、ミサゴが観察できた。冬鳥はウグイス、シロハラなどだが、1,2月に



は、40羽程度のメジロの群れが見られた。

44 氷上姉子神社 (緑区)

調査員 大原 一修

ヤマトタケルの草薙剣に縁が深く、熱田神宮の摂社で「お氷上さん」と呼ばれ人々の信仰を集めている。神社と火上山の森を含めた約80 haが調査区域である。近くに名古屋高速や知多半島道路、伊勢湾岸自動車道のインターチェンジ、大型ショッピングセンターがあり、最近急速に開発が進んでいる。特別緑地保全地区。名古屋市野鳥保護区。



調査地の特色

神社の森と火上山は常緑樹と落葉樹が混生し、野鳥のオアシスになっている。春にはキビタキ、オオルリ、冬にはジョウビタキ、ツグミ、シロハラなどの渡り鳥、1年を通してはヒヨドリ、メジロが多く見られ、運がよければオオタカ、ノスリ、ミサゴが上空を飛ぶのが見られる。

5年ほど前にナラ枯れの被害に遭ったコナラやクヌギが立ち枯れたり倒れたりして、野鳥の生息環境が悪くなっている。

45 明德緑地 (名東区)

調査員 浦上 力雄

名東区の北部に位置し、周囲を住宅地に囲まれているが、比較的自然が保たれた重要な緑のオアシスといえる。広さは18ha、釣りができる明德池や遊具広場、グラウンド、キャンプ場等が整備されているが、里山的樹林の残る貴重な都市公園である。



調査地の特色

樹木や昆虫の種類が豊富で、野鳥も多く生息していたが、近年特に野鳥の減少傾向が強い。

近年、古木・大木が伐採され、キツツキやカラ類等の森林性の野鳥が激減した。いつも池畔樹上にいたゴイサギの群れも激減した。餌を与える人がいるため、タヌキや野良ネコが定住している。

46 猪高緑地 (名東区)

調査員 渡辺 滋

猪高緑地は東名インターチェンジの南側に位置して、面積が66haの都市計画緑地である。雑木林の中に竹林が点在している。緑地内は散策路が整備されており、平日でもジョギング及び散歩の人々が数多く見られた。塚ノ杵池付近では雑木が伐採されて見通しが大変よくなった。



調査地の特色

池ではカワセミ，カルガモ，カイツブリ，オオバン，アオサギなどが数多く見られたが，前回と比べて鳥の数が減少したと思われる。

47 牧野ヶ池緑地 (名東区)

調査員 貴船 貢

牧野ヶ池緑地の敷地は 147 ha あり約半分の 75 ha が緑地公園，72 ha がゴルフ場として整備されている。ゴルフ場を取り囲むように公園の施設が散りばめられている。北部に江戸時代に作られた灌漑用のため池である牧野池があり，面積約 23 ha と名古屋市最大の広さである。池の周囲には遊歩道が整備されており，ジョギングをする人，散歩をする人など多くの人で賑わう。



愛知県指定鳥獣保護区。

調査地の特色

緑地公園には，ため池，湿地，樹林，竹林，芝生広場，草地などがあり，変化に富んだ環境となっている。ため池にはハス，スイレン，ガガブタ，ヒシ，などの水生植物が生えており，カルガモが留鳥として生息しているほか9月から3月にかけてヒドリガモ，オナガガモ，ヨシガモ，などのカモ類やオオバン，カンムリカイツブリ，ミコアイサなどの水鳥がやってきた。池のコイやブラックバスを狙ってミサゴも現れ上空からダイビングキャッチする様子も確認できた。小魚を餌とするアオサギ，ダイサギ，カワセミやカワウも観察された。樹林は植樹されたサクラ，ケヤキ，カエデなどの大木のほかは主に雑木林であり花の蜜や木の実，草の実さらにはそこに生息する昆虫を求めて来るヒヨ

ドリ，キジバト，メジロ，スズメ，シジュウカラなどを1年を通じて観察した。また秋から冬にかけてはシロハラ，ツグミ，ジョウビタキ，コサメビタキなどのヒタキ類が見られた。

48 農業センター・針名神社

(天白区)

調査員 古澤 穎一

農業センターは名古屋市東に位置し，家畜や野菜の農業公園であり，南東に隣接して四季を通じ緑豊かな名古屋市の荒池緑地がある。

針名神社は，農業センターの北西側の隣接している。名古屋市野鳥保護区となっていて，樹木の密な森がある。



調査地の特色

荒池緑地周辺の宅地化が進み，道路が整備され車が多く通るようになって，野鳥の繁殖も少なくなっている。10年前には20種を確認したが今年は15種に留まった。

針名神社は，春・秋の渡り鳥の休憩の地でもある。近年，神社の樹木が整理され，森が明るく見通しがよくなり，鳥が少なくなったように思われる。

49 相生山緑地 (天白区)

調査員 三枝 卓

広大な森林であり、畑や梅林が点在する。都市部では貴重な存在である。これは里山林とも言われ、元来、薪炭用材や落ち葉の採取など、人々の日常生活とともに管理されてきた。里山林を維持するには継続的な作業が重要なため、「オアシスの森」としてボランティアの人々によって管理活動がなされている。40年前はただの草原だったところも、立派な森に育った。散策する人もよく見られ、森林浴を楽しんでいるようだ。



調査地の特色

カラスの繁殖にも好適のようで、その数が非常に多い。

50 八事裏山 (天白区)

調査員 秋山 幸之朗

平和公園，東山公園から続く東部丘陵地の一番南に位置している。面積は約 13 ha ある。国道 153 号線のバイパスとして作られた山手植田線が中央部を走り、森が 2 つに分断されている。

愛知県指定鳥獣保護区。バイパスから北部分は東山公園天白溪湿地特別緑地保全地区。



調査地の特色

鳥種は、ヒヨドリやメジロなど林を活動場所にする鳥が多い。

植生は、常緑樹と落葉樹が混じっているため冬になってもあまり見通しはよくなる。

森の中央まで住宅地が入り込んでおり、市街化が進みつつある。車が多く、鳥の鳴き声が聞き取りにくい。

51 大根池 (天白区)

調査員 杉浦 繁夫

大根池の南にあるデイキャンプ場や芝生広場は都市公園化が進み土・日・祝日は特に大賑わいである。2020年11月より大根池の浚渫工事が始まり、2021年3月に完了した。

調査地の特色

大根池の東西には小高い丘の雑木林があり、ヒサカキなどの常緑低木やコナラやアキニレなどの落葉高木、マツやクスノキなどの針葉樹などが混在する。

大根池の周りにはヨシが生えているがその中にカワヤナギの木が増えつつある。池の中の小島にはサクラやナンキンハゼ、フジ、ヨシが生えていて、アオサギ、ダイサギ、モズなどの休憩場所になっている。

この調査地には雑木林に囲まれた池があり、渡り途中のキビタキ、センダイムシクイ、コサメビタキ等が見られた。冬にはシロハラ、ツグミ等が越冬する。池ではカルガモ、バンが常に見られる。

